



1 千里山駅西の工事状況と関連

駅東周辺整備と並び永年の懸案であった、駅西交差点付近の改良工事及び、消防団千二分団詰所の移転に伴う解体工事は8月末に終了しました。

現在、阪急タクシー出口から跨線橋にかけての道路拡幅、歩道整備工事も阪急電鉄の土地提供を受けて進められおり、来年3月末には工事が終了します。

これをもってUR千里山団地の建替に際して、住民の声を反映させるべく平成17年7月に立ち上げられた吹田市主催の「千里山駅周辺まちづくり懇談会」に端を発した「千里山駅周辺整備事業」も完了します。

当初から当まちづくり協議会は「千里山駅周辺まちづくり懇談会」において議長、世話人などの役を分担し、地域住民の方々ならびに吹田市と協働し、意見を提示し貢献してきました。

その間に懇談会でお骨折りいただいた千里山団地自治会長の小野修平氏、座長を務められた当会初代会長猪川道生氏、吹田市のアドバイザーとして参加された瀧光夫氏は残念ながら故人となりました。皆さま方のお働きはこれからも千里山住民に語り継がれていくことでしょう。

今後、私たち地域住民はこれまでのUR、吹田市の先導を多としつつ、新しく整備されたまちで千里山入居100周年に向けて千里山らしさをより深め、ワンステップアップした安心、安全なより良い住環境を、地域諸団体や吹田市と一緒にあって育てていくことの重要性を自覚し活動していく必要があるのではないのでしょうか。

なお、駅東で活動されている「千里山みどりプロジェクト」同様、駅西交差点付近の余剰地に新設された花壇では「千里山商栄会」や「近畿大阪銀行」のご協力をいただいている管理作業が始まっていることを申し添えます。

千里山まちづくり協議会 会長 筒井一光

消防団千二分団詰所移転について

私たちが地域の安心、安全で平素お世話になっている消防団千二分団の新しい詰所の位置は、「千里山ナオミ幼稚園」の北約100メートル先の元駐車場跡公園横角地の千里山西5丁目29番に吹田市により建築中です。

詰所は、平屋建てで、消防団車庫、会議室ならびに100トンの防火水槽が地下に整備され消防力の強化が図られます。

なお、完成は平成30年12月末に予定されています。

吹田市のホームページで、千里山駅周辺整備事業の進捗状況が、資料や写真などで詳しく見られます。



駅西口前の交差点



旧消防団詰所跡地



駅西口前の花壇



消防団詰所パース

2 まちづくり協議会のイベントや研修会にあなたも参加しませんか？

千里山で暮らす・遊ぶ・知るをテーマに、街づくりの提案やイベント・研修の企画などを行います！

■ 人間は自然の猛威に、いかに非力か

吹田市全域で「21号台風」の爪痕がのこるなか、9月22日千里山コミセンで関西大学社会安全研究センター河田景昭所長の防災講演会に参加させていただきました。

講演のなかで「吹田市も確実に巨大災害にまきこまれる」に強い印象をもちました。しかし、受け止め方は「しばらくは大丈夫や」また「自分が生きているうちは・・・」など様々です。9月4日の台風で私たちの街が「自然災害」に対する備えがいかに非力であったのかを教訓として受け止めなければなりません。

幸いなことに家屋の大規模な崩落などの被災がなかったものの、暴風雨のさなかに起ったのは千里山東地域を中心にした「停電」でした。すぐにでも回復するものと見込んでいたものの、台風が通り過ぎた火曜日から水曜日、木曜日に至るまで広大な地域で停電となって一部では金曜日の早朝にやっと回復した所もあります。ガス、水道に被害を受けてなくても「オール電化」の設備を持つご家庭は困りました。「台所はIH電磁誘導加熱」「風呂は自動点火」です。マンションにお住みの方からは、「風呂にどうしても入りたいと思って銭湯をスマホで検索。家からは距離があるので車を出そうとしたらこれがアウト、ガレージも電動の立体駐車場、これにはまいりました」と聞かされています。

電気がここまで私たちの生活に入りこんでいたことを改めて知らされましたと振り返っておられます。

駅前の二つの「スーパー」も一カ所は「臨時休業」。冷蔵庫が使えなくなった各家庭では冷凍食品をやむなく捨てるを得なかったと聞かされています。開店していた「コンビニ」からは、「弁当」「パン」「インスタント食品」などの商品が底をついていたとも言われています。

さらなる異変として「停電」によって街の一部分は三日三晩「暗闇の街」に一変するという経験もさせていただきました。電気の遮断だけでも私たちの生活に甚大な影響を与えます。

これが「建物の大規模な崩落」「ライフラインの破壊」そして「物流の停滞」など大規模災害ともなれば、について想定しなければなりません。

河田所長は講演の中で「大災害になれば千里山にかぎらず、大阪府下という単位で建物、道路、鉄道などありとあらゆる生活手段が破壊されます。被災者が一斉に食品・日用品などを求め行動していく」そして「動こうにも道路はガレキで埋まり、使える道路は大渋滞、予測される異常事態はいくらでも思いつきます」と話されています。

「地震は防ぐことは出来なくても、被害を最小限に」これはやろうとするなら可能です。その最大の保障は「地域力」と表現されています。「自分たちが自分達で誇りをもてる安全、安心なまちづくりにある」としめくくっておられました。（中塚正昭）



防災講演会



河田景昭所長



千里山コミセン



千里山団地の立木



NET「ピカリニュース」

■ 千里山団地後工区の工事

千里山団地連絡協議会 世話人 近藤均

千里山団地後工区の工事（関電不動産による大規模マンション建設工事等）は今どうなっているのでしょうか？

関電不動産開発をはじめとした事業主3法人による千里山団地後工区の開発事業は、第一に1年以上前からの旧H街区での認可保育園建設工事が今年3月末に終了し、4月から社会福祉法人の千里山くじら保育園が開園しています。

第二に、今春からすすめられてきた阪急千里線線路沿い近くの旧G街区でのイーエムアンドシー（株）による医療ビル建設工事、今夏までに棟上げ等の建物工事が終わり、残るは防水や電柱移設、内装工事、足場解体等となり、今秋には完成予定で年内には薬局や医院が1階に入居予定とも言われています。（2階、3階は未定？）また、旧F街区（最大面積）の南端の10数戸の戸建地区も8月末で造成工事が終わったようで、更地の状態になっています。（①②の写真）

いよいよ第三の、事業区域内最大の敷地となる旧F街区と旧E2街区での計4棟の大規模マンション建設工事が本格的に始まろうとしています。すでにこの夏以降、コンビニ向かいからA敷地、B敷地、一番奥の西側で最上部のC敷地にかけての敷地内中央路の整備と山留工事のために20トン前後の大型重機が入って作業がすすめられてきたようですが、9月20日の深夜には60トンの重機が入り、進入道路周辺の住民（主に高塚東地区住民）から地響きがして家が揺れたとの声も出されています。

元々4年ぐらい前の千里山団地先工区の旧UR団地の建物除却工事の際にも、重機による取り壊しや10トンダンプの1日平均100台以上の通行で和菓子屋さんからコンビニの並び北側までの高塚東地区の住民は、長期間にわたり騒音・粉塵・振動に悩まされてきた上に、これから後工区の本格的な工事が始まることにより、以前の弊害が再来するのではと懸念されています。

先工区では団地内のある分譲マンション前を10トンダンプ等の大型車やトラックが日常的に頻繁に通行することにより、道路下に埋設されている水道管等の埋設管を痛め、損傷したことでマンション住民の日常生活に支障を与えたこともありました。先工区で下水道管の管を太くしてはいるものの、路面の耐圧が10トン以上の大型車の頻繁な通行や60トンクラスの重機の通行にいつまでも耐え得るとは考えにくく、他の埋設管への影響も含めダメージは否定できないと考えるのが普通です。（③④に重機の写真）

8月時期には最上部のC敷地で土砂の搬出時だったかどうか分かりませんが、粉塵が舞い上がり西側のサニーハイツやグランドハイツ住民から苦情が寄せられたそうで、今秋から山留や基礎杭打工事等が本格化する中で、騒音・粉塵・振動が日常化することが心配されるところです。

また、北側の月が丘地区の戸建住民の方々に對して、大型マンションに近接する関係で境界線の立入り問題も含め、事業主である関電不動産開発や受託した施工業者はもちろんのこと、事業認可した市行政や議会も含めて、地域住民の立場に寄り添った対応が求められています。

“千里山ブランド”の創出と維持には、現在の生活環境が守られることが大前提だからです。



① 建設工事中の医療ビル



② 旧F街区の南端の戸建用地は更地の状態に。



③ グラブアーキス千里山玄関前道路に面したゲートからA敷地方面の写真。重機は60トンラフターと思われます。



④ コンビニ向いのゲートから最上部のC敷地方面を写す。左の黒い煙突のようなものが60トンラフターと推定。

■ 京都市立美術館に大森翠さんの作品が収蔵

会員の画家・大森翠さんは、青春時代にフランス政府の招きで留学され、3年間南仏とパリを拠点に研鑽を積み、帰国後千里山のアトリエで永年絵筆を取り多くの作品を創作してこられました。

それらの作品は、個展のほか、これまでも有名ホテルなど各所で展覧収蔵されてきましたが、本年春、時代を追ったその力作中6点が京都市立美術館の永久収蔵品となりました。

今後、同館の企画展などの折に、往年の巨匠の作品などと並んで、私たち観覧者の目を楽しませ、感動を新たに呼び起してくれることでしょう。大森さんは、昨年春にも、三菱京都病院の依頼により油彩14点を新制作され、患者さんの緩和ケアで喜ばれ重宝されていることが、毎日新聞にも報道されていたところです。

■ ○っと千里山 第4回秋のフェスタ

10月21日（日）は、快晴の秋晴れに恵まれ、如是山千里寺をメイン会場に、西川歯科医院をサブステージとして、上記の秋まつりが○っと千里山！の主催で開催されました。

当日は関西大学学生諸君が早朝からの設営準備に大勢で参加してくださったり、楽しそうな多くの親子の歓声、流れる音楽で終始賑わいました。

会場には出し物毎に5コーナーが展覧設営。まずフリーマーケットでは、メンバーが精魂込めた手作り小物、雑貨、掘出物などに多くの人が群がりお気に入りの品選び、人気のフードコーナーでは自家焙煎コーヒー、サイダーなどの飲み物、焼菓子、焼き芋、さらにチジミなど異国情緒も加わり話題が弾み、体験コーナーでは消防自動車が登場し、ミニ消防夫がヘルメットと制服で身を固めホース筒先をぐっと握って消防団員皆さん方の平素のご苦勞をちょっぴり体験、駆けつけたお馴染みの「すいたん」と並んでニッコリ撮影、ステージパフォーマンスでは巧みな爽やかな演奏演技にほっこり感心ひとしきり、プレイランドコーナーでは、ボーリング、輪投げ、スーパーボールすくいなどでめいめい得意技を競い合いました。

一方サブステージでは、初めての試みとして、キッズニアという子供向けの職業模擬の歯医者さん体験会が設けられました。こども達は石膏のかたどりなど珍しい体験に真剣な表情で挑戦しました。

また千里山まちづくり協議会は、パネル展示で出展し、千里山の歴史、まちの景観みどりなどを写真などで紹介し、ちさとの今昔などにふれながら来場者と世代を超えた和やかな交流の一時をもたせて頂きました。本まつりの開催運営にご協力ご尽力下さった関係各位に深謝申し上げます。（中野直衛）



教え子の子供たちと



迷う-gray'10



Avec ma solitude・灰



千里寺フリマーケット



パネル展示で交流



消防車も参加

■ 日本スポーツグランプリ受賞 南部久子様をお偲びして

東京五輪2020開催を控え、五輪金メダリスト故 南部忠平氏夫人の南部久様が2018・7・24に106歳の天寿を全うされました。

五輪の夫君に対して久様は全日本マスターズ世界記録保持者（90歳・砲丸投げ）であられ、マスターズ当初から競技に参加され、女性の最高齢選手としての活躍が国民に感動や勇気を与え続けられたご功勞により、日本スポーツグランプリ受賞の榮譽にも輝いております。

久様のご逝去を謹んで悼みつつ、スポーツ一家のご功績を地元からも改めて少しく振り返らせて頂きます。

※

※

※

札幌のお生まれで幼児期にフレーベル保育を受けられ、成長して「うま忠」のニックネームの示すごとく乗馬で自ずから足腰を鍛えられていた忠平氏は、転入の旧制北海中学で足腰のパネを見込まれ、陸上競技界に入られた。そして徐々に頭角をあらわし、全国中等学校陸上選手権大会では4種目制覇で個人優勝もされ、その実力は全国的に知られるところとなる。早稲田大学卒業後は、美津濃に就職された。

この時期、朝日新聞の織田幹雄、関西大学の島鎌吉そして南部忠平各氏の跳躍三人男が奇しくも千里山に住み、関大グラウンドで練習を共にされている。そしてご承知の通り昭和7年のロサンゼルス五輪で、勇躍、三段跳びで15.72mの世界・五輪新記録を樹立し表彰台に日章旗をあげられた。大島選手も3位。その後毎日新聞運動部長、鳥取女子短大学長などを歴任される他、東京五輪陸上競技監督などを通じてスポーツ界、教育界に貢献された。地元であっても、学校運動の指導や町内子供駅伝等を企画され、当時それに参加した人々のうちに楽しい思い出として残されている。

長女敦子様もアスリートで、昭和29年マニラ開催の第2回アジア大会に日本代表で出場され、100m走優勝などの輝かしい成果を上げられた。そればかりか、その澁刺とした姿と笑顔と誠実で優雅な振舞いが、戦後根強く残っていた比国人の反日感情を和らげ、若人達の心を捉え親日感情へと導かれたことが当時の現地新聞に大きく報道されることとなった。

その後も敦子さんのことどもを、永年心に留めておられた当時のマニラ大学学生のアマディオ・アルボレーダ氏（城西国際大学教授）が訪日の折、東京千里山会の会誌等を通して、敦子さんの早逝を知られ、悼み惜しまれ同会との友好的な交流が始まりました。こうして、半世紀前に日比親善に貢献された敦子様の上記の様子が知られるようになりました。

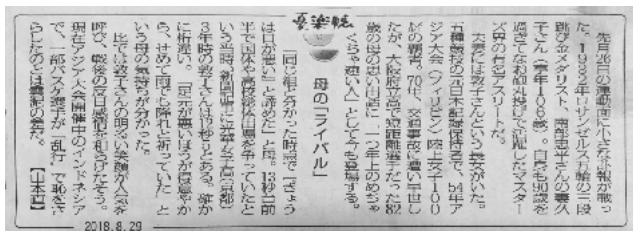
その後同会を通じて同氏と久様、敦子様の娘様とのお出会い、当時を物語る同氏の講演、日経新聞文化欄の掲載紹介などへと奇しく連なり、平成の新たな日比親善の輪が広がりました。国交正常化60年の両陛下の比国ご訪問時には皇后様は敦子様の写真なども携え赴かれ、若きアスリートの活躍、フレンドリーな親善交流の歩みへのお思いを新たにされ遊ばされたと伝えられています。

地域における南部ご夫妻の明るく親しみあるお人柄は縁結びにもあらわれ、お仲人でお世話を受けられた方々は凡そ百組にも及ぶそうです。

天かけるスポーツご一家は今お揃いで平和の祭典の成功を温かく見守っていて下さることでしょう。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

（編集部）

わが町に偲ぶ人あり秋澄めり 翠



毎日新聞 2018/8/29



父娘ラン



日経新聞 2010/9/21



久さんを囲んで
(寺澤・樺山・山本各氏)



記念大会に招待

